

いしだ便り

第 10 号

2015年4月23日発行

発行 石田ふるさと振興会

編集 総務広報委員会

地域の鎮守を守る

霊山支団長 佐藤 正徳

一月二十六日文化財防火デーに鑑み、去る一月二十五日（日）鈴嶽神社境内において伊達市消防団霊山支団、各団体、消防組合東分署の協力の下防火訓練を実施しました。

朝早くからは石田婦人防火クラブ、石田ふれあいサロンの皆様に炊き出し訓練として五〇〇個のおにぎりを作って頂きました。消防署、消防団の技術の錬磨と共有を諮り通信訓練、四線による中継放水訓練では各部署の安全な操作を確認しながら一斉放水して防御鎮火で訓練を終了しました。参加された皆様のキビキビとした訓練に感謝申し上げます。人助けが好き、消防団が好き、石田が好き

殉職警察官慰霊碑の変遷

先般、石戸駐在所前にて慰霊式が行われた碑は職務遂行中の警察官が流され姿が見えなくなった彌五郎堰の馬館道路の近くに在った。後、道路拡張のため下岩崎の渡辺一男氏宅前の道路の土手に移された。その場所も国道一一五号開通時代の波に流



され移転をよぎなくされた。適当な場所が見つからないでいた折、当時の石戸公民館長富田重教氏（鈴嶽神社宮司）の尽力により石戸村役場跡の広場に祀られた。三度目の安住の地です。今年で百年目を迎えます。合掌

石田の宝特集 6 百目木の地蔵様

石田小学校のちよっと上手、国道脇にひっそりと佇む地蔵様と岩に彫られた仏様、石碑等が見られる所です。地蔵様には赤い帽子や前掛け等近くの人が着せてあるのを見ることがあります。いつからあるのかわかりませんが、そこに住む人たちに聞いて見たいと思っています。



石田ふるさと振興会

「総会」開催について

通常総会が次のとおり開催されますので、ぜひ、「ご出席をお願いします。」

- ・日時 五月九日（土）午後二時三〇分
- ・場所 石戸地区交流館

※総会終了後、「昭和の結婚式」のビデオ上映があります。どなたでも出席OKです。



祝膳



ふるまいの酒・料理



三々九度



祝宴



昭和の結婚式 再現されました。

く地区を挙げてのイベント」
三月一日 石田ふるさと振興
会の一大事業の昭和の結婚式を
再現しました。嫁方の家から嫁
入りまでを振り返りました。場
所は、中瀬集会所から石戸地区
交流館まで花嫁行列しながら進
めた。朝早くから実行委員会は
もとより多くの協力者に手伝
って頂きながら最高の盛り上げで
終了しました。石田ふるさと振
興会から関係各位の皆様にお協
力を頂き感謝申し上げます。

御 礼
あいにくの雨模様の中、お足もとが
悪いにもかかわらず、大勢の皆様
にお運びいただき、感謝の気持ちでい
っぱいです。石田ふるさと文化再発見事
業「昭和の結婚式」の花婿花嫁の役
者として再現できたこと、皆様に見守
られながらの心温まる結婚式ができ
たのも、準備・協力してくださった皆
様、当日参列してくださった皆様のお
かげです。そしてあらためて「石田の
地域力」の大きさを感ずることができ
ました。まだまだ未熟でいたらない私
たちですが、二人で力を合わせて地域
力を受け継いでいきたいと思います。
これからもどうぞよろしくお願ひ申
上げます。

菅野 善文
照



嫁方での祝言



祝揺 所は高砂



近迎え 受け取り渡し



花嫁行列



総務広報委員会

二十七年年度 第一回 総務 広報委員会を開催いたしました。行政推進員が交替り、顔合わせ意見交換 又 総務の事業、会長のお願いなど話し合いをしました。

健幸福祉委員会

「石田っこクラブ」は、二月二十一日に、今年度の閉校式を行いました。東京から大学生も八名来てくれて、子供たちといっしょに凧揚げを行いました。又、お土産のあんぼ柿も好評でした。健幸石田地区の二月の定例会では、カロリーを考えたメニューでの食事会でした。男性の参加者も五名おり、なごやかな食事会でした。その後の栄養士さんのお話も、とても勉強になりました。



地域活性化委員会

新年度に、新たにやってみたい事。空き家を利用した都会からの人集めをしたいと考えています。それには、空き家の所有者の理解が必要ですが、それが大変むずかしく思います。一件でも、二件でも貸すとか、ゆずるとか許可がもらえればホームページに乗せて発信することが出来るので石田の皆様の協力をお願いします。又、春の清掃登山五月二日に決まりました。伊達市観光物産協会の協賛として実施を致します。登山終了後に豚汁を提供いたします。

環境防災委員会

振興会発足以来、環境防災委員会として、地区の美化を図るため、彼岸花及び水仙の植栽事業を実施しておりますが、地区皆様の協力により本年も植栽事業を実施しますと、当初の計画をほぼ完了出来るものと考えておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

今回の「いしだ便り」では、熊屋敷地内に建設されました、仮設焼却炉について考えてみたいと思います。焼却炉建設にあたっては、地区説明会が何度かあり、施設の概要、安全性等について説明があり、皆様ご承知のことと思いますが、火入れ式も終わり、本格稼働されるにあたり、石田地区民として安全を担保とし、リスクを背負わないためにも実施主体である、伊達地方衛生処理組合、受託事業者、そして石田地区民の三者が情報を共有し、監視していく必要があると思います。

◆ 事務局の案内 ◆

四月から

交流館は土・日もオープン

石戸地区交流館の管理については、この四月から石田ふるさと振興会が引き受けることになりました。

地域の人に喜んで使ってもらうために、利用時間や休館日を次のとおりとしましたので、ぜひご利用ください。

○利用時間

午前九時から午後九時三十分

○休館日

年末年始（十二／二十九～一／三）

休館日と毎週火曜日を除く毎日、振興会の事務局員が勤務しています。

土・日曜日も開いていますので、卓球や読書、お友達とのお茶会等、個人での利用もOKです。お気軽にご来館いただきたいと思います。

福島県サ・ポート事業で石田を元気に！

一昨年から福島県の「地域づくり総合支援事業」（サポート事業）を活用して石田を元気にする事業に取り組んでいます。

事業費の約8割が補助されます。今年度もこの事業を活用して地域の活性化を図っていきます。

主な事業は次のとおりです。

- ・ いしだ便りの発行
- ・ 石田の花植栽事業
- ・ 石田っこクラブ開設
- ・ 霊山清掃登山
- ・ 夏祭り大交流会

そのほかにも多彩な事業を計画しています。詳しくは総会で説明することとしています。

新一年生にプレゼント

昨年石田ふるさと祭りで行った「もったいないバザー」の収益金二九六七〇円を「石田ふるさと子供基金」として活用することとしました。

石田ふるさと振興会では、この春、小学校に入学する3名の児童に、入学祝として図書券をプレゼントしました。



事務局長 石田ふるさと振興会

事業紹介 発表

去る、二月七日二本松市において石田ふるさと振興会の事業報告をしてきました。



宮城教育大学 結城登美雄先生

宮城教育大学の結城登美雄先生から、地域に合った事業を展開して大変良く継続することが大切との講評でした。講演の中、山深い地域のおばちゃん達が昔の家庭料理の店を開き列ができ、訪れる人達が増えて活気が



あり、生きがいを感じているとの事例があり、ここ石田地区にも何か名物つくり皆さんと考えて行きたいと思えます。

健幸ウォーキング大会

健幸福祉委員会では、三月十五日(日)に第二回「石田健幸ウォーキング大会」を行いました。今回は講師を岩崎の遠藤敏夫さんにお願しい、コースも石戸地区交流館を出発し、国道の側道を谷田岸から蓬田集会所までの往復三・五キロのコースでした。皆さんへの周知が遅れて、昨年より参加者が少し少なかったのですが、当日はウォーキング日より、参加者は初めてのコースをみんなで楽しく歩くことが出来ました。



「バレーを楽しむ人たち」

こんにちは、私達石田家庭バレーチームは、昔は人数も多く強かったのですが、今では人数が少なくなり試合によくややく参加している状態です。石田チームの黄金時代は終り、今では霊山町の家庭バレーチームの中では、一番のお姉さん株になり、時の流れには勝てないものですね。家庭バレーは八人制ですが混合ソフト・バレーは四人制です。それで二年前から火曜日の練習日に、ソフト・バレーの練習日にしました。家庭バレーの試合には、人数が集まった時に町の大会に参加しています。これからは、スポーツ仲間間の輪を大切にしてみんなで楽しく汗をかき、体を動かし、健康に気を付けて素敵な年齢を重ねられることが出来ればいいかなと思います。みなさん一緒にスポーツをしません



か。火曜日に体育館で汗をかきにきてください。お待ちしております。石田家庭バレー渡辺るみ子でした。

廃品回収にご協力を

石田育成会の廃品回収にいつもご協力を有難うございます。いつも大変多くの古紙、ダンボール、本、雑誌類など回収することが出来ました。また、二十七年度も廃品回収をやっていきたいと思いますのでご協力をお願い致します。

育成会の廃品回収での収益で子供会や中学三年生、小学六年生の育成会送る会の会費に当てています。どうぞこれからも育成会の廃品回収にご協力をお願い致します。次回の廃品回収は、六月ごろに予定をしておりますので、協力をよろしくお願い致します。



編集後記

サッカー日本代表のシンボルマークに三本の黒い鳥が描かれています。黒い鳥の正体をご存知ですか。日本を統一した神武天皇が東征のとき、熊野から大和に入る険路を先導したという伝説上の大ガラスです。古事記によると、この大ガラスはヤタガラス(八咫鳥)と云われ、導きの神として信仰されています。この神話から勝利に導くシンボルとしてサッカー日本代表のシンボルマークに採用されたこととします。「石田ふるさと振興会」の活動が、八咫鳥として石田の導きになればと期待しております。(還 暦男)